

2018 / 04

1st Clinical Hypnosis Session

男性
30 代
アメリカ人
ニューヨーク在住
教師

【解決、軽減、解消したい事項】

慢性的な頭痛
肩の筋肉の痛み
飛行機の恐怖症
根拠のない強い不安感、強迫観念

療法の記録：

光の中のイメージ

薄いピンクの様な空が広がっている。
とても居心地が良い。
少し暖かい。
水の音がしている。

草の様な、苔の様なものが生えている地面に立っている。

リラックスしている。

滝の上に立っている。

そのすぐ近くに家がある。

小川の様な溜め池の様な感じの水辺のほとり。

その水辺が、崖の淵を超えて滝になっている。

小さい小屋の様な家。

緑の屋根。草でできている。

家の中に玄関から入る。

扉はない。

家の真ん中にテーブルがある。

小さめの皿が載っている。

皿には木の実が載っている。

見た事のない形の木の実。

自分は男性？

性別はよく分からない。

若い。

年齢は分からない。

年齢という概念がない。

細い体。

名前はあるみたいだが、使わない。

（舌を打ち付ける様な破裂音で）S の付く名前。

肌がガサガサしている。

腕を見ると、茶色や緑をしている。

黄色っぽい色の丸い模様があるかも。

3本の指。

体の色は腕とは違って、もっと緑色をしている。

足はとても筋肉質で、緑色をしている。

足の指は長くて、4本ある。

顔は茶色っぽい。

大きな目をしている。

尖った小さい鼻。

口はものすごく小さい。

長い髪の毛がたくさん生えている。

髪の色は茶色っぽくて、肩の長さ。

絡まったまま塊の様に纏まった髪の毛。

テーブルに誰かいる。
自分よりも大きい人。
友人。
青くて大きな目。
鼻が大きい。
体は筋肉質で頑丈。
髪の毛が生えている。
オレンジっぽい色。
彼は、石の付いたメタリックな服を着ている。

余り楽しくない。
これから嫌な事が起きようとしている。
2人で何かを決めた。
私たちはテレパシーで会話をしている。
決めた事について、まだ心が完全に乗らない。
これからどこか遠くに旅に出る。
もう決めてしまった。
旅の目的は、救済。
少し悲しい。

(時間を進めると)
宇宙船に乗っている。
2人で小さな部屋にいる。
そこから出ると、他の人達もいる。
10人ぐらいがここにいる。
皆、同じ星の知り合い。

何か特別な部屋がある。
この中に入ると、どこか別の場所に行く。
知っていたけれど、いよいよその時が来たらしい。
悲しい。
知り合い皆に別れを言わねばならない。
でも、嬉しい気持ちもある。
自分は、ずっと前にこれをしようと決めていたから。

この旅は、人間を助ける為。

これから私は地球に行く。
今からさよならを告げる。
そして眠りに就く。

その星の人達を助けたいと思っている。
なぜかというと、地球に住んでいる人々は変化を迎えようとしている。
進化している。
人間も、地球も。
とても興味深い。
人々が覚醒し始めてきている。
彼らが本当は誰なのかについて。
私はもうずっと前から既に覚醒しているけれど、地球の人々も覚醒しなければならない時期にきている。
でも、地球は長い間囚われていて、その為には外からの助けが必要。
私が地球に行って、人間として体を持って、まずは私が覚醒して人々に示さねばならない。
私の役目は人々を目醒めさせる事。

地球に行った時のイメージ

体がない。
大きな木の中にいる。
私は木ではないけれど、木の中にいる。
私はここで待たなければならない。
私は、精霊

私は人間と話ができない。
でも、数人の人間は、私の事を知っている。
私のいる木は、とても高く、枝が沢山張り出している。
杉？
約4000年前。
ここは日本だと思う。
日本の南の方。
私のいる木は、人々に神が宿ると言われて崇められている。

神は、私。
私の前に人々がやって来て、祈ったり、踊ったりしている。
ここにいるのは好き。
私は愛されている。
必要とされている。
私は虹色のエネルギー体。
私のエネルギーが見える人もいる。
皆、私の命を祝ってくれる。
私は、私のエネルギーを使って人々を癒す事ができる。
私はこのエネルギーそのもの。
これは私のいた星では、皆が共有していた。
お願いをされると、その人達を癒してあげる事ができる。
役に立てて嬉しい。

重要な場面のイメージ 嵐。

1週間雨が止まなかった。
最後の日に雷が沢山なった。
私は、もう人間になる準備が整っていた。
雷にうたれて、木から出た。
木の中には 200 年ぐらいいた。

木から出ると、私は人間の姿になっている。
男性。
日焼けした肌。
逞しい。
生命力が漲っている。
紀元前後。
これからどこかに行く。
皆でどこかに行く。
安全を求めて。
多分、戦争が起こっている。
中東のどこか。

そこは壁に取り囲まれていて、大きな1つの建物が
ある。
壁の中は安全なのに、人々はそこには入れない。
壁の中は安全。
ここは私の街ではない。
私は通り過ぎているだけ。
私は悲しい気分。
私は誰ともコミュニケーションができない。
私の言っている事を理解できないと言う。
誰も私に言う事を聞こうとしない。
愛についての理解が薄い。
地球の人間は、自分達の為に他人を殺す事を厭わない。
自分への愛が理解できない。
他者への愛が理解できない。
他者は、自分の中の愛を共有する為ではなく、奪う
為に存在していると思っている。
私にはこれ以上の事はできない。
悲しい。
私は都市の外にいる。
他の人もいる。
彼らは皆、盾と槍や刀を持って守っている。
向こうから侵略者が歩いて来る。
街が騒々しい。
沢山の兵士が外に出て来た。
侵略者達は黒い姿をしている。
私は彼らの指揮官と話をする。
侵略しに来たのではないと言っている。
私は、マインドを読む事ができる。
彼らは偽りを言っている。
「統合、共存の為の話し合い」だと言っている。
でも、本人達は、真偽はそれほど重要ではなくて、
言葉は只の道具だと思っている。
言葉のパワーを見下している。
彼らが偽りを言うと、毒気のエネルギーを発している事に気付いていない。
かわいそうに・・・と思う。

私は、共存の為には武器は要らないと言った。
同意できない、と言われた。
でも私は、マインドの力で、彼らの武器を使えなく
する事ができる。
驚いた彼らは、戦わずして後退する事になった。
でも、壁の中の人間は、それを信じる者は1人もい
ない。
私はそこを離れた。

(急に時空が変わって)

他の者達と、ボートに乗っている。
ヨーロッパに行く。
ボートはアフリカから来た。
イタリア人。
目的地に着いた。
とても忙しい都市に来了。
シチリアのどこか。

自分は男性。
28 歳。
筋肉質。
ブラウンに近い黒髪。
瞳は緑がかった茶色。
肩ぐらいまでの長さ。
健康。
少し背が高い。
石工。
名前はマルコ。

今は、教会の建設に携わっている。
1600 年代。
大聖堂。
私はとても腕がある。
石を削って、適切な大きさや形を作るのに優れてい
る。
石の性質がすぐに分かる。
石と会話する。

この大理石は、ここの祭壇に使われるのを喜んでい
る。
この仕事は嫌いではない。
石工は 13 歳の時からしている。
殆ど教会建設に関わってきた。

この人生で重要な場面のイメージ
魅力的な女性に出会った。

アンドレア。
私と同じ目の色をしている。
長い黒髪。
優しい。

教会の外で出会った。
出会った時、すぐに彼女と一緒にいる事が分かっ
た。
同じ目をしている。
偶然に父親同士が知り合いで、結婚の話がすぐに纏
まった。
私は 23 歳。
幸せ。
家庭と一緒に作る。
息子と娘が生まれた。

その他の重要な場面のイメージ

教会にいる。
石を削って仕事をしている。
そろそろ仕事も終わる。
事故が起こった。
何かが落ちて来た。
私の近くに組んであった足場が崩れた。
大きな梁の木片が私の頭を直撃した。
死んだ。
あっという間に体を抜けた。

体を抜けると、マリア様が立っていた。
「良く生きた。愛に溢れて、真摯で、人の役に立つ
素晴らしい人生でしたね」と言われた。
光に入った。

この人生を終えて

この人生は、淡々と石と向き合った。

石についての知識を多く得た。

私は、石の性質やパワーをすぐに理解する能力があって、思い通り、自由自在に扱える能力があったので、仕事に有利だった。

とても腕の立つ職人として、多くの人に信頼を得ていた。

怒りや不安から自由で、常に自然体でいられた。

愛についても学んだ。

謙虚で、身近な人間に対してだけでなく、物質や自然に対しても愛情を持って関わっていた。

その事が、物のエネルギーに敏感で、そのエネルギーを肯定的に自分の生活に活用できた事で、とても穏やかで満ち足りた人生を送る事ができた。

今生の自分自身へのメッセージ

考え過ぎるな。

あれこれと色々な物事に執着し過ぎ。

自分の中にある能力を信じろ。

自我を離れたら、人生が回転する。

囚われていてはいけない。

ヒーリング + 暗示

ハイヤー・セルフとの対話のイメージ

【この人生を見せた理由】

淡々と生きて、淡々と死んだ。

全く執着、エゴがなかった。

命にさえ、執着がなかった。

委ねる事、手放す事の大切さを再認識して欲しかった。

【なぜ、今生は、常に根拠のない強い不安感、強迫観念に悩まされている？】

彼が、魂の向上を常に意識しているにも拘らず、自分の思い通りにならないと思う事が多く、ネガティブに考えがち。

全体的にバイブレーションが低くなっている。

【その根本原因が、今振り返った人生にあった？】

彼は、地球に来る時に、この星と人々の役に立ちたいと強く願っていた。

来たばかりの頃は、自分の存在に意味や価値を見出していたのに、地球にいる時間が長くなって、沢山の人生を繰り返していくうちに、初めの志を見失いかけて来た。

【人生と人生の間に、光の中で設定する時に確認しないのか？】

確認しても、人間の姿として生まれて来た時点で、忘れてしまうから。

【では、今回の人生の設定は？】

この人生も、＜人助けの為＞にある。

それは、ずっと一貫していて変わらない。

【最初に地球に来る前にいた星は？】

オクトレス？

彼はそこでとても幸せで、その星を離れるのがとても辛かった。

【なぜ辛い思いをしてまで地球に？】

地球はとても美しい星。

それに、地球に行けば、人間として沢山の豊かな体験ができると知っていて、多くの仲間が既に地球に行っていた。

彼も、地球に変化を齎す為に行ってみたかった。

他人を助けるのが好きで、それが彼の魂の本質。

平和や調和を愛する彼の性質を用いて、地球の人々に目覚めを齎したいと願った。

【それは、今迄、上手くいってきた？】

人間として行うのは、なかなか難しい。

彼は、この数年で意識が変わってきて、本来の理想を思い出したいと願っていたので、このセッションが必要だった。

【このセッションで、他に思い出すべき事は何？】

彼には、ブロックが掛かっている。

本来の働きをする為に、彼は、そのブロックを取り外す必要がある。

その”ブロック“を形成した根本原因人となる場面のイメージ

飛行機に乗っている。

海の上を飛んでいる。

小型の飛行機。

1943 年か 44 年。

船が沢山見えている。

輸送船もあるけれど、戦艦も多い。

自分は戦闘機に乗っている。

フランスの陸地付近。

今は、訓練の最中。

教官が後部座席にいる。

自分で志願した。

国を守る為。

私はドイツ人。

26 歳。

ヘルムート。

中肉中背。

恋人に会いたいけれど、次の休み迄は会えない。

それは 1 カ月近く後。

でも、彼女には、もう会えない。

この人生で重要な場面のイメージ

焼夷弾を撃っている。

地上の標的に向かって。

ここはポーランド。

敵機は撃ち落として、他の戦闘機も見えない。

敵の基地を狙っている。

人々が逃げ惑っている。

この状況は、1 人で何とかできると思う。

あともう 1 つ標的がある。

オイルの切れる前に、もう 1 つの標的も何とかできる。

無敵に感じる。

今、海に出た。

命令を待っている。

早く自国の家に帰りたい。

恋人に会いたいと思っている。

急に後方から弾が飛んできた。

うわっ、どうしよう。

気付かないうちに、見付かっていたらしい。

相手はアメリカ軍。

逃げる。

沖に向かって飛んでいると、沢山の戦艦。

アメリカ軍のもの。

数基の戦闘機に追われて、攻撃されている。

逃げ切る。

ダメだ、逃げ切れない。

恐怖よりも、怒りがこみ上げる。

アメリカ軍は、自分達を殺しに来た。

自分を殺そうとしている。

負けない。

攻撃を仕掛ける。

戦艦に向かって攻撃した。

弾が当たって、戦艦に 1 つから炎が上がった。

別の戦艦から発射された弾が、前方に飛び交う。

あ、弾が私の飛行機に当たった！

右翼が吹っ飛んだ。

もうダメだ！

脱出する。

あ、ダメだ、開かない。

もう遅過ぎる！

飛行機はしまったまま、開かない！
うわっ、もうダメだ！
海に突っ込んだ。
海水が・・・。
息苦しい。
水を飲んだら、意識がなくなった。

体を離れた。
自分の体が機体の中に繋がったまま、沈んでいく。
だんだん暗さが増してきた。
自分は、それを確認してから、上昇した。
空がきれい。
大きな美しい光がある。

光には入らずに、恋人の所に行った。
彼女は台所でじゃが芋の皮を剥いている。
グレーのスカート。
会いたかった。
彼女は自分に気付かない。
また上に光が見えたので、「愛してる、さようなら」と言って、光に入る事にした。
彼女といたかったけれど、光が美しかったので、早くそこに行きたいと思った。

人生を振り返って
エゴが大き過ぎた。

自国を守りたいと思ったけれど、今、何の為に人を
気付付けなければいけないのかよく分からない。

ヒーリング + 暗示

ハイヤー・セルフとの対話のイメージ

【この人生を体験した意味は？】
この人生の課題は、憎しみや怒りを体験する事。
そして、許す事を学ぶ事。

【クライアントは、その課題をしっかりとこなせた？】
こなせた。

【クライアントが地球に降り立った目的は”人の為になる”事だった筈だが、兵士として他人を攻撃する人生であっても、やはりそこに、学ぶべき課題があった？】

そう。
役割分担がある。
人類全体が大きな学びを得る為に、役割分担をする。
彼は、自分の魂の成長の為に、この人生では、ネガティブな感情を学ぶ必要があり、それを人生の設定にしてきた。

【”自分らしくない自分“を知らないと、本当の”自分らしさ“に気付けないから？】
その通り。

【この人生を思い出した事によって、今後の人生にどう影響する？】
強迫観念的な不安感を手放す事ができる。
その理由がはっきりとした事によって、安心感を手にできる。

【安心感を手に入れる事によって、彼らしさが完全に取り戻せる？】
まずは、自分を許す事から。

【彼は、もう自分を許せた？】
はい、大丈夫。
この人生を思い出せた事で、より幅広く他人を理解できる。
人に、より良い理解を示す事ができる。
その事が、人の役に立つには大切。

【人間の明るい部分と暗い部分を理解する事？】

そう。
今生抱えているネガティブな感情を解放できる。
この人生から引き摺ってきた恐れと憎しみを手放す。
今後の人生を、もっと気楽に、自分らしく生きていく為。

暗示

慢性的な頭痛について

これは、イタリアの石工の人生を思い出した事で、もう手放している。
心配しなくていい。

暗示

肩の酷い痛みについて

自分で何でもやろうとし過ぎている。
自分を過信し過ぎ。
他の人の助けを求めよ、という私（ハイヤー・セルフ）からのメッセージ。
収縮している。
肩は荷物を載せる為でなく、自分の持っている力を発揮して人の役に立つ為に使う。
その為に地球に来ている。

【今後、具体的にどの様に人の役に立っていったらよいか？】
起こっている事に準備を始めなさい。
もうじき変化が始まる。
地球の。

【地球の変化の為に人の役に立つとは？】
彼は、地球に来る前に既に覚醒した魂だった。

今迄、彼は色々な人生体験を通して、地球に住む人間としての様々な側面を、身をもって理解してきた。
彼の役割は、他の人々のガイドとして導いていく事。
地球の変化は、いい事。

【彼は、教師としても、次世代を導く為にガイドとしての役目がある？】

そう。
彼は、どの様にしてポジティブな心持で生きていくかを生徒に示していける。
地球にとって必要なのは、縛られた統制された考え方ではなく、個人個人の個性を尊重し、他人や世界の為に何ができるかを考えさせるための方向性を示す事。
ポジティブで他人や世界を思いやる事で、個人の波長が高くなり、より多くの人々の目醒めに繋がっていく。
彼は、それを示す事ができる。

暗示

最近、何度もインディアン女性が来て来て、何かを渡そうとする夢を見る事について

彼女は彼ガイド・スピリット。
彼がいつも守られている事を伝えたがっている。

【何かを手渡そうとしている？それとも、単なるジェスチャー？】
彼女は、約 300 年前に同じ人生を共有した時の母親。
ナバホ族。
その時に身に付けていたターコイズの首飾りを手にしている。

【この人生を思い出した方がいい？】

余り思い出す必要はない。

この人生は、調和に満ちた素晴らしいものだったという事を知っていて欲しい。

他の部族ともいい関係を築き、母親との絆は深かった。

【ターコイズは彼にとって、今でも特別な石？】

ターコイズの持っている石の波長は、彼ととても相性がいい。

自分で言い感じのする石を選んで、身に付けると、石が助けてくれる。

彼の元々持っている魂の波長と、宇宙の光波長を使うのに、役立つ。

【具体的には？】

彼を本来の自分らしく安定した波長に整え、グラウンディングするのに役立つ。

そして、石が、彼と波長のある人間を連れてくるだろう。

ボディ・スキャン

とてもいい状態になった。

チャクラの調整

オーラチェック

全体的に明るい緑

頭頂部は明るいピンク~赤

首のあたりはスカイブルー

金色の輝き

制限時間が来て終了